

〈特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」〉

マラーティー語:
特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」
「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」

Marathi:
‘Passive Expression’, ‘Aspect’, ‘Modality’, ‘Voice and related expressions’,
‘Expressions of possession and existence’

千田 聡美
Satomi Chida

デカン大学院大学
Deccan College Post-Graduate and Research Institute

要旨: 本稿は特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」(『語学研究所論集』第 14-18 号, 2009-2013, 東京外国語大学) に寄与する。本稿の目的は 5 個のアンケート項目に対するマラーティー語のデータを提供することである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Passive expression’, ‘Aspect’, ‘Modality’, ‘Voice and related expressions’, ‘Expressions of possession and existence’ (Journal of the Institute of Language Research 28, 2023, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to provide Marathi data for 5 selected questionnaires.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002000389>

キーワード: マラーティー語, インド・アーリア語派, ヴォイス, アスペクト, モダリティ, 所有・存在表現

Keywords: Marathi, Indo-Aryan languages, Voice, Aspect, Modality, Possessive

1. はじめに

本稿は、インド西部に位置するマハーラーシュトラ州の公用語であるマラーティー語のデータ (5 個のアンケート項目) を提供するものである。

マラーティー語は、インド国内でヒンディー語、ベンガル語に次ぎ 3 番目に話者が多い言語¹である。系統的にインド・アーリア語派に属しているが、近隣のドラヴィダ諸語 (カンナダ語, ゴンディ語, テルグ語) に文法や語彙の影響を受けている。マラーティー語の表記は、一般的にデーヴァナーガリー文字が使用される。

マラーティー語には、10 種類の母音がある。a は短母音, ā は長母音として区別されるが, i と u の母音の長短は音素として区別されない。また, ɔ と æ は借用語にのみ使われる。子音は 42 種類あり, 有声・無声の対立に加え, 有気・無気の対立がある。²



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ Census of India (2011) によると, マラーティー語の話者数は約 8300 万人である。

² 詳しくは Pardeshi (2016) pp.3 を参照されたい。

マラーティー語の形態統語的な特徴の概要を述べる。マラーティー語は、主語、目的語、動詞の SOV 語順を取り、後置詞をもつ主要部末尾型の言語である。名詞は3つの性の区分（男性、女性、中性）があり、単数、複数によっても語形が変化する。マラーティー語はアスペクトによる分裂型の能格型言語である（パルデシ、柴谷 2020: 418）。自動詞の主語は形態的に無標であるのに対して、3人称を主語とする他動詞の完結相には能格（-ne [単数]/-ni [複数]）が用いられる。動詞は時制と相（未来、未完結、完結）に応じて屈折する。基本的に主語の数、性、人称と一致するが、他動詞の完結相では、一部例外を除いて³目的語の数、性、人称に一致する。

本調査は、2023年7月にマラーティー語母語話者の方（1980年代生まれ、ブネー出身）の翻訳協力を得て実施した。協力者は和英翻訳のフリーランス翻訳者として13年の経験を持つため、日本語からマラーティー語への自然訳を依頼し、風間（2020）で提示されている英語例文を参考として共有した。マラーティー語は比較的語順の自由度が高い言語であるため、日本語文からの直訳が多く許容されるが、本調査においては、あくまでもマラーティー語母語話者が自然に使用できる文を採用した。

デーヴァナーガリー文字からの音声転写とグロスは千田によるものである。音声転写は、Pardeshi（2016）と Dhongde and Wali（2009）を参考にしている。グロスに関しては、基本的に Leipzig Glossing Rules に従う⁴。

2. データ

1. 「受動表現」（語学研究所論集 第14号）

マラーティー語の受身構文は、他動詞の動作主に後置詞 कडून *kaḍun*（～から）が付加され、①「完了分詞+जाणे *jā-ne*（行く）」によって表現される GO Passive（例2）と②「分詞-ण्यात *nyāt*+येणे *ye-ne*（来る）」によって表現される COME Passive（例3）の二種類がある。例文（1）～（3）Pardeshi（2000）pp. 13 から引用した。

- (1) 警察は泥棒を捕まえた。 [能動文]

पोलिसांनी चोर पकडला.

<i>polis-ā-ñ-ni</i>	<i>cor</i>	<i>pakaḍ-l-ā</i>
police-OBL-PL-ERG	thief.M	catch-PFV-MSG

- (2) 泥棒は警察に捕まえられた。 [受身文, GO Passive]

पोलिसांकडून चोर पकडला गेला.

<i>polis-ā-ñ-kaḍun</i>	<i>cor</i>	<i>pakaḍ-l-ā</i>	<i>ge-l-ā</i>
police-OBL-PL-by	thief.M	catch-PASSPTCP-MSG	go-PFV-MSG

³ 目的語に与格がついている場合、動詞は中性を示す。

⁴ 文末にグロス表（略号）を付加している。

- (3) 泥棒は警察に捕まえられた。[受身文, COME Passive]

पोलिसांकडून चोर पकडण्यात आला.

polis-ā-ñ-kaḍun cor pakad-ṅ-yā-t ā-l-ā.
 police-OBL-PL-by thief.M catch-INF-OBL-LOC come-PFV-MSG

例文 (2), (3) は，能動文 (1) からの直接受身である。Pardeshi (2000) によると，GO Passive と COME Passive は，行為の意図性 (intentionality) によって使い分けられる。行為が事前に計画されていた場合は COME Passive が使われやすく，意図されていなかった事態や一般的な事柄，自然発生的な出来事，動作主が無生物の場合は GO Passive が使用される傾向にある⁵。

マラーティー語では，自動詞の受身や間接目的語を主語にする受身構文は文法的に非文となる。また，堀江・パルデシ (2009) が示したように，マラーティー語は日本語に比べて受身構文の使用頻度が低く⁶，普通の会話で動作主が明確な場合や，感情を示す文に受身構文を使うと不自然になってしまうことが多い。本調査において，マラーティー語母語話者（一名）に日本語例文からマラーティー語への自然訳を依頼したところ，例文 1-1 から 1-10-b のうち，マラーティー語で自然に受身構文を使用した文は 1-6 (モノ主語受身，恒常的。動作主が問題にならない場合) のみであった。それ以外の文は，能動態による表現の方が好まれた。

- 1-1 A は B に叩かれた。(直接受身)

बबनने आनंदला मारले.

baban-ne ānand-lā mār-l-e.
 Baban⁷-ERG Anand⁸-DAT beat-PFV-NSG

「ババンはアーナンドを叩いた。」⁹

1-1 の例文について，マラーティー語では，動作主 B を主語とする能動文のほうが自然となる。ただし，発話の場面によっては前述の例文 (2) や (3) のように，マラーティー語でも直接受身は可能である。

- 1-2 A は B に足を踏まれた。(持ち主の受身，体の部分)

आनंदच्या पायावर बबनचा पाय पडला.

ānand-č-yā pāy-ā-var baban-c-ā pāya paḍ-l-ā.
 Anand-GEN-OBL foot-OBL-PP Baban-GEN-MSG foot.M fall-PFV-MSG

「アーナンドの足の上にババンの足が落ちた。」

आनंदच्या पायावर बबनकडून पाय पडला गेला.

ānand-č-yā pāy-ā-var baban-kaḍun pāya paḍ-l-ā ge-l-ā.
 Anand-GEN-OBL foot-OBL-PP Baban-by foot.M fall-PASSPTCP-MSG go-PFV-MSG

⁵ 詳しくは Pardeshi (2000), pp.30-31, Pardeshi (2016), pp. 85-89 を参照されたい。

⁶ 例として，夏目漱石の「こころ」を題材としたパラレルコーパスでは，日本語で 339 回の受身構文があるのに対して，マラーティー語訳では 42 回のみ受身構文が使用された。

⁷ 本データにおいて，原文の人物 B の翻訳として，マラーティー語で B から始まる男性名 बबन (ババン) に統一した。

⁸ 本データにおいて，原文の人物 A の翻訳として，マラーティー語で A から始まる男性名 आनंद (アーナンド) に統一した。

⁹ 以下，例文中の「」内の文は，マラーティー語訳をさらに日本語に直訳したものである。

「アーナンドの足はババンによって踏まれた。」

1-2 の例文について、マラーティー語では、「B の足」を主語とする能動文のほうが自然となる。ただし、この行為が意図的でない場合は、二行目の例文のように GO Passive を用いた受身表現も許容されるという意見もあった。

1-3 A は B に財布を盗まれた。(持ち主の受身, 持ち物)

आनंदचे पाकीट बबनने चोरले.

ānanda-c-e pākiṭ baban-ne cor-l-e.

Anand-GEN-NSG wallet.N Baban-ERG steal-PFV-NSG.

「アーナンドの財布はババンが盗んだ。」

आनंदचे पाकीट बबनकडून चोरण्यात आले.

ānanda-c-e pākiṭ baban-kaḍun cor-ṅ-yā-t ā-l-e.

Anand-GEN-NSG wallet.N Baban-by steal-INF-OBL-LOC come-PFV-NSG

「アーナンドの財布はババンによって盗まれた。」

1-3 の例文について、マラーティー語では、動作主 B を主語とする能動文のほうが自然となる。ただし、この行為が事前に計画されていた場合は、二行目の例文のように COME Passive を使った受身表現も許容されるという意見もあった。

1-4 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。(自動詞からの間接受身)

काल रात्री बाळ रडत होते. त्यामुळे मी अजिबात झोपू शकले नाही.

kāl rātri bāl raḍat hote. tyāmuḷe mi ajibāt jhop-u śak-l-e nāhi.

yesreday night baby.N cry be.PST. therefore I at all sleep-S.INF can-PFV-NSG NEG.

「昨晚赤ん坊が泣いた。そのため、私は全く眠れなかった。」

1-4 の例文について、マラーティー語では、自動詞からの間接受身は非文となるため、能動文によって示される。

1-5 新しいビルが (A によって) 建てられた。(モノ主語受身, 一回的)

आनंदने नवीन इमारत बांधली.

ānand-ne navin imārat bāndha-l-i.

Anand-ERG new building.F built-PFV-FSG.

「アーナンドが新しいビルを建てた。」

नवीन इमारत बांधण्यात आली आहे.

navin imārat bāndha-ṅ-yā-t ā-l-i āhe.

new building.F built-INF-OBL-LOC come-PFV-FSG be.PRS.

「新しいビルが建てられた。」

1-5 の例文について、マラーティー語では、動作主が明らかな場合、能動文のほうが自然となる。一方で、動作主が不明の場合、二行目の例文のようにモノ主語の受身が新聞や記事でよく使われている。

- 1-6 カナダではフランス語が話されている。(モノ主語受身, 恒常的, 動作主が問題にならない場合)

कॅनडामध्ये फ्रेंच भाषा बोलली जाते.

kēnaḍā-madhye phreñc bhāṣā bol-l-i jā-t-e.

Canada-PP French language.F speak-PASSPTCP-FSG go-IPFV-NSG.

「カナダではフランス語が話されている。」

1-6 の例文について, マラーティー語でも受身構文が自然に使われる。

- 1-7 財布が (A に) 盗まれた。(モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される)

पाकीट आनंदने चोरले.

pākiṭ ānand-ne cor-l-e.

wallet.N Anand-ERG steal-PFV-NSG.

「財布はアーナンドが盗んだ。」

पाकीट चोरीला गेले.

pākiṭ cor-l-ā ge-l-e.

wallet.N steal-PFV-MSG go-PFV-NSG

「財布が盗まれた。」

1-7 の例文について, マラーティー語では, 動作主が想定できる場合, 能動文を用いる。一方で, 動作主がわからない場合は, 二行目の例文のようにモノ主語の受身を用いる。

- 1-8 壁に絵が掛けられている。(モノ主語受身, 結果状態の叙述)

भिंतीवर चित्र लावलेले आहे.

bhinti-var citra lāv-lel-e āhe.

wall-PP picture.N hang-PFV2-NSG be.PRS.

「壁に絵が掛けてある。」

1-8 の例文について, マラーティー語では, 完了相 2¹⁰を使用した能動文のほうが自然となる。

- 1-9 A は B に / から愛されている。(感情述語の受身, 特に動作主のマーカに注目)

बबनचे आनंदवर प्रेम आहे.

baban-c-e ānand-var prem āhe.

Baban-GEN-NSG Anand-PP love.M be.PRS

「ババンはアーナンドを愛している。」

1-9 の例文について, マラーティー語では, 動作主 B を主語とする能動文のほうが自然となる。マラーティー語では, 感情を示す文に受身構文は使われにくい。

- 1-10 A は B に / から「...」と言われた。(伝達動詞の受身, 特に動作主のマーカに注目)

बबन आनंदला म्हणाला, "...".

baban ānand-lā mhaṇā-l-ā, "...".

Baban Anand-DAT say-PFV-MSG, "...".

¹⁰ 完了相 2 についての詳しい説明は, 後述のアスペクト 2-2 を参考にされたい。

「ババンはアーナンドに「…」と言った。」

1-10 の例文について、マラーティー語では、動作主 B を主語とする能動文のほうが自然となる。

1-10-a A さんは B さんに呼ばれて、今 B さんの部屋に行っています。

बबनने आनंदला बोलावले म्हणून तो आता बबनच्या खोलीत जात आहे.

baban-ne ānand-lā bolāv-l-e mhaṇūn to ātā baban-ĉ-yā kholi-t jā-t āhe.

Baban-ERG Anand-DAT call-PFV-NSG so he now Baban-GEN-OBL room-PP go-IPFV be.PRS.

「ババンはアーナンドを呼んだ。そのため、彼は今ババンの部屋へ行っている。」

1-10-a の例文について、マラーティー語では、動作主 B を主語とする能動文のほうが自然となる。

1-10-b B さんが A さんを読んで、A さんは今 B さんの部屋に行っています。

बबनने आनंदला बोलावले म्हणून आनंद आता बबनच्या खोलीत गेला आहे.

baban-ne ānand-lā bolāv-l-e mhaṇūn ānand ātā baban-ĉ-yā kholi-t ge-l-ā āhe.

Baban-ERG Anand-DAT call-PFV-NSG so Anand now Baban-GEN-OBL room-PP go-PFV-MSG be.PRS

「ババンはアーナンドを呼んだ。そのため、アーナンドは今ババンの部屋に行っている。」

1-10-b の例文について、マラーティー語では、動作主 B を主語とする能動文のほうが自然となる。

以上、日本語とマラーティー語の受動表現の比較から、日本語では受身形で表現できる文が、マラーティー語で受身構文に訳そうとすると不自然となってしまう場面が多いことが分かった。しかしながら、本稿のデータは日本語の文法使用傾向を中心としているため、マラーティー語では受身構文が使われるのに、日本語では能動態が好まれる文などには触れることができていない。

2. 「アスペクト」(語学研究所 第 15 号)

一般的に「アスペクト」とは、出来事内の時間 (event-internal time) を示す。マラーティー語の完結相 (perfective) は動詞の語幹に *-l* が付加され、未完結相 (imperfective) は動詞の語幹に *-t* が付加される。また、前望相 (prospective) は動詞の語幹に *-nār* が付加されることによって示される。マラーティー語の先行研究では、完結相 (perfective aspect) *-l* の記述は多くあるが、完了相 (perfect aspect) についてはあまり触れられていない¹¹。その理由として、Deo (2006) は「完了相の形態論的解釈は、通時的に完結相の解釈へと一般化された (pp.228)」と述べている。本稿では、マラーティー語の先行研究に倣い、完結相 (perfective) と未完結相 (imperfective) という用語を使用する。

2-1 ~さん (固有名詞) は/あの方は もう来た。

आनंद आला आहे.

ānand ā-l-ā āhe.

Anand come-PFV-MSG be.PRS.

「アーナンドが (もう) 来た。」

2-1 の文について、「(もう) 来た」という表現に対し、マラーティー語では動詞の語幹に完結相 *-l* が付加され、文末に助動詞¹² *āhe* (be) が使用されている。これによって、アーナンドがすでに来たというニ

¹¹ Comrie (1976) は、Perfective (完結相) と Perfect (完了相), Imperfective (未完結相) と Imperfect (未完了相) が異なることを指摘している。

¹² 本稿では「助動詞」という表現を使っているが、コンピュータ動詞、または繫辞を意味する。

ュアンスを示している.

2-2 ~さん (固有名詞) は/あの方は もう来ている.

आनंद आलेला आहे.

ānand ā-lel-ā āhe.
Anand came-PFV2-MSG be.PRS.
「アーナンドは (もう) 来ている。」

2-2 の文について、「(もう) 来ている」という表現に対し、マラーティー語では動詞の語幹に完結相 2 ¹³-*lel* が付加され、文末に助動詞 *āhe* (be) が使用されている。これによって、アーナンドがすでに来ていて、その状態が今も続いていることを示している。

2-3 ~さん (固有名詞) は/あの方は まだ来っていない.

आनंद अजून आलेला नाही.

ānand ajun ā-lel-ā nāhi.
Anand still came-PFV2-MSG NEG.
「アーナンドはまだ来っていない。」

2-3 の文について、「まだ来っていない」という表現に対し、マラーティー語では動詞の語幹に完結相 2 *-lel* が付加され、動詞の前後に「まだ~ない」を示す *ajun* (still) ... *nāhi* (not) が使用されている。これによって、アーナンドがまだ来ておらず、その状態が今も続いていることを示している。

2-4 ~さん (固有名詞) は/あの方は まだ来ない.

आनंद अजून आला नाही.

ānand ajun ā-l-ā nāhi.
Anand still come-PFV-MSG NEG.
「アーナンドはまだ来ない。」

2-4 の文について、「まだ来ない」という表現に対し、マラーティー語では動詞の語幹に完結相 *-l* が付加され、動詞の前後に「まだ~ない」を示す *ajun* (still) ... *nāhi* (not) が使用されている。これによって、アーナンドがまだ来ないという状況を示している。

2-5 ~さん (固有名詞) は/あの方は もう (すぐ) 来る.

आनंद थोड्याच वेळात येईल.

ānand thoḍ-yā-c veḷ-ā-t ye-il.
Anand little-OBL-EMPH time-OBL-PP come-FUT.3SG
「アーナンドは短い時間で来る。」

2-5 の文について、「もうすぐ来る」という表現に対し、マラーティー語では「来る」の動詞の未来形 *ye-il* が使用され、その手前に「短い時間で」を意味する *thoḍ-yā-c veḷ-ā-t* (in a short time) が表れている。

¹³ 完結相 2 (second perfective) とは、過去完了形 (past perfective) のことである。マラーティー語の完結相 2 は *-lel* で示され、関係節にも用いられる。本稿では、動詞の過去完了を示す *-lel* を完結相 2 (PFV2) とし、関係節に用いられる *-lel* を過去分詞 (past participle) とグロスした。

これによって、アーナンドが来るという事態はまだ起きていないが、もうすぐ来ることを予測していることが示唆される。

2-6 (あ!) ~さんが来た!

(अरे!) आनंद आला!

(are!) ānand ā-l-ā!
 Oh! Anand come-PFV-MSG.
 「あ!アーナンドが来た!」

2-6の文について、「来た!」という表現に対し、マラーティー語では、動詞の語幹に完結相 *-l* が付加され、助動詞 *āhe* は表れない。これにより、アーナンドが来たことを実況的に示している。

2-7 昨日~さんが来たよ。

आनंद काल आला होता.

ānand kāl ā-l-ā hotā.
 Anand yesterday come-PFV-MSG be.PST.
 「アーナンドが昨日来た。」

2-7の文について、「アーナンドが昨日来た」という過去の出来事を説明するために、マラーティー語では、動詞の語幹に完結相 *-l* が表れ、文末に助動詞の過去形 *hotā* (was) が使用されている。

2-8 昨日~さんは来なかったよ。

आनंद काल आला नव्हता.

ānand kāl ā-l-ā navh-tā.
 Anand yesterday come-PFV-MSG NEG-PST.
 「アーナンドは昨日来なかった。」

2-8の文について、「アーナンドが昨日来なかった」という過去の事実を説明するために、マラーティー語では、動詞の語幹に完結相 *-l* が表れ、文末に否定形の過去 *navh-tā* (was not) が使用されている。

表1は、2-1~2-8の「来る」という動作の未実現から過去に至るまでの日本語とマラーティー語のアスペクト表現を整理したものである。英文は参考として、風間 (2000) から借用した。

	日本語	マラーティー語	英語
未実現	まだ来ない	<i>ajun ā-l-ā nāhi.</i>	hasn't come yet.
	もうすぐ来る	<i>thoḍ-yā-c veḷā-t ye-il.</i>	will come soon.
実現	まだ来ていない	<i>ajun ā-l-el-ā nāhi.</i>	hasn't come yet.
	来た!	<i>ā-l-ā!</i>	has come!
	もう来た	<i>ā-l-ā āhe.</i>	already came.
過去	もう来ている	<i>ā-l-el-ā āhe.</i>	has already come.
	昨日来た	<i>kāl ā-l-ā hotā.</i>	came yesterday.
	昨日来なかった	<i>kāl ā-l-ā navh-tā.</i>	didn't come yesterday.

表1：日本語とマラーティー語のアスペクト表現の対照1「来る」

2-9 (私は) あのリンゴをもう食べた.

माझे ते सफरचंद खाऊन झाले आहे.

mā-jh-e *te* *sapharacand* *khā-un* *jhā-l-e* *āhe*.
 I-GEN-NSG that apple.N eat-CVB become-PFV-NSG be.PRS.
 「私はあのリンゴを (もう) 食べた。」

2-9 の文について、「(もう) 食べた」という表現に対し，マラーティー語では複合動詞の V2 の語幹に完結相 *-l* が表れ，文末に助動詞 *āhe* (be) が使用されている。

2-10 私はあのリンゴをまだ食べていない. / 私はあのリンゴをまだ食べない.

मी अजून ते सफरचंद खाल्लेले नाही.

mi *ajun* *te* *sapharacand* *khāl-l-el-e* *nāhi*.
 I still that apple.N ate-PFV2-NSG NEG.
 「私はあのリンゴをまだ食べていない。」

मी ते सफरचंद खाणार नाही.

mi *te* *sapharacand* *khā-ṅār* *nāhi*.
 I that apple.N eat-PROSP NEG.
 「私はあのリンゴを食べない。」

2-10 の文について、「まだ食べていない」という表現に対し，マラーティー語では動詞の語幹に完結相 2-*l-el* が付加され，文末に否定形 *nāhi* が使用されている。また，動詞の前に「まだ」を意味する *ajun* (still) が表れる。これによって，リンゴをまだ食べておらず，その状態が続いていることを示唆している。また，「食べない」の対応として，マラーティー語では前望相 *-ṅār* の後に否定形 *nāhi* が使用されている。これによって，リンゴをまだ食べておらず，食べる予定はまだないことを示している。

2-11 あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています / 食べているところです.

तो आता ते सफरचंद खात आहे.

to *āttā* *te* *sapharacand* *khā-t* *āhe*.
 he right now that apple.N eat-IPFV be.PRS.
 「彼はちょうど今，そのリンゴを食べている。」

2-11 の文について，「食べている」という表現に対し，マラーティー語では動詞の語幹に未完結相 *-t* が表れ，文末に助動詞 *āhe* (be) が使用されている。これによって，現在進行を示している。

表 2 は，2-9~2-11 の「食べる」という動作の未実現から過去に至るまでの日本語とマラーティー語のアスペクト表現を整理したものである。英文は参考として，風間 (2000) から借用した。

	日本語	マラーティー語	英語
未実現	まだ食べない	<i>khā-ṅār nāhi</i> .	won't eat
	まだ食べていない	<i>ajun khāl-l-el-e nāhi</i> .	haven't eaten yet
実現	食べている	<i>khā-t āhe</i> .	be eating
過去	もう食べた	<i>khā-un jhā-l-e āhe</i> .	already ate

表 2：日本語とマラーティー語のアスペクト表現の対照 2「食べる」

2-12 窓が開いている／窓が開いていた.

खिडकी उघडी आहे.

khidki *ughaḍ-i* *āhe*.
window.F open-PP be.PRS
「窓が開いている。」

खिडकी उघडी होती.

khidki *ughaḍ-i* *hoti*.
window.F open-PP be.PST
「窓が開いていた。」

2-12 の文について、「開いている」という表現に対し、マラーティー語では *ughaḍ-i* (open) の後に助動詞 *āhe* (be) が表れ、現在の状態を示している。また、「開いていた」の対応として、*ughaḍ-i* (open) の後に助動詞の過去形 *hoti* (was) が表れ、過去の状態を示している。

2-13 私は毎朝新聞を読む／読んでいます。

मी रोज सकाळी वर्तमानपत्र वाचते.

mi *roj* *sakāli* *vartmānapatra* *vāc-t-e*.
I everyday morning newspaper.N read-IPFV-FSG.
「私は毎朝新聞を読む。」

2-13 の文について、「新聞を読む」という日々の習慣を示す文に対し、マラーティー語では動詞の語幹に未完結相 *-t* が付加され、助動詞 *āhe* は使われない。この場合、未完結相は習慣・普遍性を示す Habitual の意味に変わる。

2-14 あなたは (あなたの) お母さんに似ている。

तू तुझ्या आईसारखी दिसतेस.

tu *tu-jh-yā* *āi-sārakhi* *dis-t-es*.
you.SG you-GEN-OBL mother-like look-IPFV-2SG.
「あなたは (あなたの) お母さんに似て見える。」

2-14 の文について、「似ている」という表現に対し、マラーティー語では「似る」を意味する *-sārakhi dis-ṇe* (look like...) の未完結相が使用されている。

2-15 私はその頃毎日学校に通っていた。

मी तेव्हा रोज शाळेत जायचे.

mi *tevhā* *roj* *śāle-t* *jā-yce*.
I then every day school-PP go-PST.HAB

「私はその頃毎日学校に通っていた。」

2-15 の文について、「通っていた」という過去の習慣を示す表現に対し，マラーティー語では動詞の語幹に過去の習慣を示す *-yce* が付加され，助動詞は使われない。

2-16 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

मी न्यूयॉर्कला गेले आहे.

mi nyuyörk-lā ge-l-e āhe.
I New York-DAT go-PFV-FSG be.PRS.

「私はニューヨークに行ったことがある。」

2-16 の文について、「行ったことがある」という過去の経験を示す表現に対し，マラーティー語では動詞の語幹に完結相 *-l* が表れ，文末に助動詞の現在形 *āhe* が使われている。

2-17 やっとバスは走り出した／走り始めた。

अखेर बस पुढे जाऊ लागली.

akher bas puḍhe jā-u lāg-l-i.
finally bus onwards go-S.INF begin-PFV-FSG.

「やっとバスは走り始めた。」

2-17 の文について、「走り出した」という表現に対し，マラーティー語では「走り始めた」を意味する複合動詞 *jāu lāg-l-i* (started going) が使われている。

2-18 昨日彼女はずっと寝ていた。

ती काल दिवसभर झोपली होती.

ti kāl divasbhar jhop-l-i hoti.
she yesterday whole day sleep-PFV-FSG be.PST.

「彼女は昨日ずっと寝ていた。」

2-18 の文について、「寝ていた」という表現に対し，マラーティー語では動詞の語幹に完結相 *-l* が付加され，文末に助動詞の過去形 *hoti* (was) が使用されている。

2-19 私はそれをちょっと食べてみた。

मी त्याची चव बघितली.

mi t-yā-č-i cav baghit-l-i.
I that-OBL-GEN-FSG taste see-PFV-FSG.

「私はそれを味見してみた。」

2-19 の文について、「食べてみた」という表現に対し，マラーティー語では「味」を意味する名詞 *cav* (taste) の後に、「見る」の完結相を意味する *baghit-l-i* が使用されている。

2-20 あの人はそれ（ら）をみんなに分け与えた。

त्याने ते सर्वांना दिले.

t-yā-ne te sarvān-nā di-l-e.
 he-OBL-ERG that everyone-DAT.PL give-PFV-NSG.
 「彼はそれをみんなにあげた。」

2-20 の文について、「分け与えた」という表現に対し、マラーティー語では「あげる」を意味する動詞 *de-ṇe* の語幹に完結相 *-l* が付加されている。

2-21 さあ、(私たちは) 行くよ!

चला, आपण जाऊया!

calā, āpaṇ jāu-yā!
 come on, we.incl go-HORT
 「さあ、私たちは行くよ!」

2-21 の文について、「行くよ」という表現に対し、マラーティー語では激励 (hortative) を示す *jāu yā!* (let us go) が使用される。

2-22 地球は太陽の周りを回っている。

पृथ्वी सूर्याभोवती फिरते.

pṛthvi suryā-bhovati phir-t-e.
 earth.F sun-around rotate-IPFV-FSG.
 「地球は太陽の周りを回っている。」

2-22 の文について、普遍性を示す「回っている」という表現に対し、マラーティー語では 2-13 と同様に、動詞の語幹に未完結相 *-t* が付加され、助動詞 *āhe* は使われない。この場合、未完結相は習慣・普遍性を示す Habitual の意味に変わる。

2-23 あの木は今にも倒れそうだ。

ते झाड कोणत्याही क्षणी पडेल असे वाटत आहे.

te jhāḍ koṇat-yā-hi kṣaṇi paḍ-el ase vāṭa-t āhe.
 that tree.N anytime-OBL-EMPH moment fall-FUT like feel-IPFV be.PRS.
 「あの木は今にも倒れると思う。」

2-23 の文について、「倒れそうだ」という表現に対し、マラーティー語では「倒れる」の未来形 *paḍ-el* の後に、「～と思う」を意味する *ase vāṭat āhe* (feeling like that) が使われている。

2-24 (私は) あやうく転ぶところだった。

मी जवळजवळ खाली पडणार होते.

mi *javaļjavaļ* *khāli* *paḍ-ṅār* *hote.*
 I almost below fall-PROSP be.PST.

「私は、ほとんど転ぶところだった。」

2-24 の文について、「転ぶところだった」という表現に対し、マラーティー語では「倒れる」の前望相 *paḍ-ṅār* の後に、助動詞の過去形 *hote (was)* が使われている。

2-25 明日客が来るので、パンを買っておく。

उद्या आमच्याकडे पाहुणे येणार आहेत, म्हणून मी ब्रेड आणून ठेवते.

udyā *ām-č-yā-kade* *pāhune* *ye-ṅār* *āhe-t,* *mhaṅun mi breḍ* *āṅ-un* *ṭhev-t-e.*
 tomorrow we-GEN-OBL-PP guest.PL come-PROSP be.PRS-PL, therefore I bread bring-CVB keep-IPFV-F

「明日うちに客が来るので、パンを買っておく。」

2-25 は複文である。前件の「客が来る」という表現に対しては前望相が使われ、後件の「買っておく」の表現に対しては複合動詞の未完結相 *āṅ-un ṭhevtē (bring and keep)* が使用されている。

2-26 (私は) ～に (街とか市場とか) 行ったとき、この袋を買った。

जेव्हा मी टोकियोला गेले होते तेव्हा मी ही पिशवी विकत घेतली.

jevḥā mi ṭokiyo-lā *ge-l-e* *hote* *tevhā mi hi pišvi* *vikat ghet-l-i.*
 when I tokyo-DAT go-PFV-FSG be.PST then I this bag.F buy take-PFV-FSG.

「私は東京に行ったとき、この袋を買った。」

2-26 は複文である。前件の「行った」は過去の経験を示す「完結相+助動詞の過去」で表し、後件の「買った」は完結相で示している。

2-27 (私は) ～に (街とか市場とか) 行く時/行く前に、この袋を買った。

मी ही पिशवी टोकियोला जाण्याआधी विकत घेतली.

mi *hi* *pišvi* *ṭokiyo-lā* *jā-ṅyā-ādhi* *vikat ghet-l-i.*
 I this bag.F tokyo-DAT go-OBL-before buy take-PFV-FSG.

「私はこの袋を東京に行く前に買った。」

2-27 は複文である。前件は「行く前に」を意味する *jā-ṅyā-ādhi (before going)* が使用され、後件の「買った」は完結相で示されている。

2-28 (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

मला माहित होते की त्याने ही पिशवी या बाजारात विकत घेतली होती.

ma-lā *māhit* *hote* *ki* *t-yā-ne* *hi* *pišvi* *yā bājār-ā-t* *vikat ghet-l-i* *hoti.*
 me-DAT know be.PST that he-OBL-ERG this bag.F that bazar-OBL-PP buy take-PFV-FSG be.PST.

「私は知っていた、彼がこの袋を市場で買ったことを。」

2-28 は複文である。補文の場合、マラーティー語は始めに主節が表れる。主節では「知る」を意味する *māhit* に助動詞の過去形 *hote (was)* が後続し、補文節内では、「買った」を意味する完結相 *vikat ghet-l-i* に助動詞の過去形 *hoti (was)* が後続する。

以上、マラーティー語は、動詞に付加される完結相 *-l*、完結相 2 *-lel* または未完結相 *-t* と後続する助動詞 *āhe* の時制のコンビネーションによってさまざまなアスペクトを示すことが分かった。また、助動詞の有無によってもアスペクトが異なる。日本語との対照のためには、更なるデータが必要となると考える。

3. 「モダリティ」(語学研究所 第 16 号)

モダリティは、現実と、話者の心、そして言語が密接に関連する観念的カテゴリーである。モダリティは、文の命題に対する話し手の態度や意見を表現する役割を果たす。Dhongde and Wali (2009) によると、マラーティー語のモダリティは、接尾辞の追加 (suffixation) や複合語化 (compounding process) によって表現される。

3-1 (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。【許可】

(तुमचे काम पूर्ण झाले की) तुम्ही घरी जाऊ शकता.

(*tum-c-e kām purṇa jhā-l-e ki tumhi ghar-i jā-u śak-t-ā.*

(you.PL-GEN-NSG work.N complete become-PFV-NSG then) you.PL home-PP go.S.INF can-IPFV-2PL.

「あなたの仕事が終わったら、あなたは家に帰ることができます。」

3-1 の文について、「帰ってもいいですよ」という許可を示す表現に対し、マラーティー語では、「行く」の不定詞 *jā-u* の後に「できる」を意味する可能表現 *śak-t-ā* が表れる。

3-2 (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない/それを食べるな。【禁止】

ते खाऊ नका (कारण ते खराब झाले आहे).

te khā-u nakā (kāraṇ te kharāb jhā-l-e āhe).

that eat-S.INF not.PL (because that spoil become-PFV-NSG be.PRS.)

「それを食べるな。なぜなら、それは腐っている。」

3-2 の文について、「食べるな」という禁止を示す表現に対し、マラーティー語では、「食べる」の不定詞 *khā-u* の後に禁止を意味する *nakā* が表れる。

3-3 (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。【義務】

(उशीर झाला आहे त्यामुळे) आम्हाला आता परत जायला लागेल.

(*uśira jhā-l-ā āhe tyāmuḷe) āmh-ā-lā ātā parat jā-(a)y-lā lāg-el.*

(late become-PFV-IPL be.PRS therefore) we.excl-OBL-DAT now back go-L.INF-DAT begin-FUT

「遅くなったため) 私たちはいま帰らなければならない。」

3-3 の文について、「行かななければならない」という義務を示す表現に対し、マラーティー語では、「行

く」の願望を示す *jā-(a)y-lā* の後に V2 の *lāg-el* が表れ、「have to go」を示す。

3-4 (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。【推奨】

(पाऊस पडेल असे ऐकले आहे त्यामुळे) छत्री घेऊन निघालेले बरे.

(*pāus paḍ-el ase aik-l-e āhe tyāmuḷe) chatri ghe-un nighā-lel-e bare.*
 (rain.M fall-FUT like hear-PFV-NSG be.PRS therefore) umbrella.F take-CVB leave-PST.PTCP-NSG good.

「(雨が降ると聞いたから) 傘を持って行った方がいい。」

3-4 の文について、「～たほうがいい」という推奨を示す表現に対し、マラーティー語では、「出かけること」を意味する *nighā-lel-e* の後に「よい」を意味する *bare* が表れる。

3-5 歳をとったら、子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ。【評価的義務】

म्हातारे झाल्यावर आपण आपल्या मुलांचे ऐकले पाहिजे.

mhātāre jhā-l-yā-var āpaṇ āp-lyā mulā-ṅ-c-e aik-l-e pāhije.
 old man become-PFV-OBL-PP we.incl self-POSS child-PL-GEN-NSG hear-PFV-NSG should

「年寄りになったら、我々は子供のいうことを聞くべきだ。」

3-5 の文について、「聞くべきだ」という評価的義務を示す表現に対し、マラーティー語では、「聞く」の完結相 *aik-l-e* の後に「べき」を意味する *pāhije* が表れる。

3-6 お腹が空いたので、(私は) 何か食べたい。【希望】

मला भूक लागली आहे, म्हणून मला काहीतरी खायला हवे आहे.

ma-lā bhuk lāg-l-i āhe, mhaṇun ma-lā kāhītari khā-(a)y-lā have āhe.
 me-DAT hunger feel-PFV-FSG be.PRS so I-DAT something eat-L.INF-DAT need be.PRS.

「私はおなかが減ったため、私は何か食べたい。」

3-6 の文について、「食べたい」という希望を示す表現に対し、マラーティー語では、「食べる」の願望を示す *khā-(a)y-lā* の後に「～したい」を意味する *have āhe* が表れる。

3-7 私が持ちましょう。【意志】

मी ते घेते.

mi te ghe-t-e.
 I that take-IPFV-FSG.

「私がそれを持ちます。」

3-7 の文について、「持ちましょう」という意思を示す表現に対し、マラーティー語では、一人称で「(私が) 持つ」を意味する未完結相の動詞 *ghe-t-e* が使われる。

3-8 じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。【勧誘】

चला, दुपारचे जेवण सगळे एकत्र करूया.

calā, dupār-c-e jevaṇ sagaḷe ekatra karu-yā.
 come on, afternoon-GEN-NSG meal.N everyone together do-HORT

「さあ、昼ご飯はみんなで一緒に食べましょう。」

3-8 の文について、「さあ、～ましょう」という勧誘を示す表現に対し、マラーティー語では、激励 (hortative)を示す *karu-yā* (let us do) が使われる。

3-9 一緒に昼ご飯を食べませんか？【相手の意向が不明な場合の勧誘】

आपण दुपारचे जेवण एकत्र करूया का?

āpaṇ dupār-c-e jevaṇ ekatra karu-yā kā?
 we.incl afternoon-GEN-NSG meal.N together do-HORT Q?

「私たちはご飯をみんなで食べましょうか？」

3-9 の文について、「ませんか？」という相手の意向が不明な場合の勧誘を示す表現に対し、マラーティー語では、一人称複数が主語となり、激励 (hortative)を示す *karu-yā* (let us do) が使われ、さらに疑問を示す *ka?* が後続する。否定の表現は表れない。

3-10 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。【希望】

उद्या हवा चांगली असेल तर बरे होईल ना.

udyā havā cāṅgali as-el tar bare ho-il nā.
 tomorrow weather.F good be-FUT.3SG COR.then good be.FUT ASSR

「明日天気が良いといいなあ。」

मी आशा करते की उद्या हवा चांगली असेल.

mi āśā kar-t-e ki udyā havā cāṅgali as-el.
 I wish.F do-IPFV-FSG that tomorrow weather.F good be-FUT.

「私は明日の天気が良くなることを願っている。」

3-10 の文について、「なるといいなあ」という希望を示す表現に対して、マラーティー語では、条件を示す相関詞 *tar* (then) の後に「It will be good」を意味する *bare ho-il* が表れる。一方、「なってほしい」という表現に関しては「I wish that...」を意味する *mi āśā kar-t-e ki...* が使用され、後件で天気が良くなる状況を示している。

3-11 (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。【命令】

(मी इथे थांबते आहे.) ते लगेच घेऊन ये.

(mi ithe thāmb-t-e āhe.) te lagec ghe-un ye.
 (I here wait-IPFV-FSG be.PRS) that right way take-CVB come.IMP.SG.

「私はここで待っている．それをすぐに持って来なさい．」

3-11 の文について，「来なさい」という命令を示す表現に対し，マラーティー語では，動詞「来る」の単数で命令を示す *ye* が使われる．

3-12 そのペンをちょっと貸していただけませんか？【懇願】

आपण मला ते पेन थोड्या वेळासाठी देऊ शकाल का?

āpaṅ ma-lā te pen thoḍ-yā velā-sāṭhi de-u śak-āl kā?
 you.PL I-DAT that pen a little-OBL time-for give-S.INF can-FUT.PL Q?

「あなたは私にそのペンを少しの時間貸すことはできますか．」

3-12 の文について，「～していただけませんか」という懇願を示す表現に対し，マラーティー語では，可能動詞の未来形 *śak-āl* に疑問詞 *kā?* が付加される．

3-13 あの人は中国語が読めます．／あの人は中国語を読むことができます．【能力可能】

त्याला चीनी भाषा वाचता येते.

t-yā-lā cini bhāṣā vāc-tā ye-t-e.
 he-OBL-DAT Chinese language.F read-PTCP come-IPFV-FSG.

「彼に中国語が読める．」

तो चीनी भाषा वाचू शकतो.

to cini bhāṣā vāc-u śak-t-o.
 he Chinese language.F read-S.INF can-IPFV-MSG.

「彼は中国語を読むことができる．」

3-13 の文について，「読める」という能力可能を示す表現に対し，マラーティー語では，COME 動詞を使った *vāc-tā ye-t-e* と可能動詞を使った *vāc-u śak-t-o* の二通りの言い方がある．

3-14 明かりが暗くて，ここに何が書いてあるのか，読めない【状況可能】

इथे पुरेसा उजेड नसल्यामुळे काय लिहिले आहे ते मला वाचता येत नाही.

ithe puresā ujeḍ nas-l-yā-muḷe kāy lihi-l-e āhe
 here enough light.M NEG-PFV-OBL-PP what write-PFV-NSG be.PRS
te ma-lā vāc-tā ye-t nāhi.
 that I-DAT read-PTCP come-IPFV NEG.

「ここは十分な光がないため，何が書いてあるか私に読めない．」

3-14 の文について，「読めない」という状況可能（不可）を示す表現に対し，マラーティー語では，COME 動詞を使った *yet nahi* が使用される．

3-15 (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。【確信】

(सकाळी लवकर निघाले होते त्यामुळे) ते एव्हाना पोहोचले असायला हवेत

(*sakāḷi lavkar nighā-l-e hote tyāmuḷe*)
(morning early leave-PFV-NSG be.PST therefore)

「(朝早く出発したため)

te evhānā pohoc-l-e asā-(a)y-lā have-t.
they already reach-PFV-NSG be-L.INF-DAT want-PL.

彼らはもう到着しているはずだ。」

पोहोचले असतील यात काही शंकाच नाही.

pohoc-l-e as-til yā-t kāhi śankā-c nāhi.
reach-PFV-NSG be-FUT this-PP some doubt-EMPH NEG.

もう到着しているに違いない。」

3-15の文について、「はずだ」という確信を示す表現に対し、マラーティー語では、should be を意味する *asā-(a)y-lā have-t* が使用され、「違いない」を示すためには there is no doubt を意味する *kāhi śankāc nāhi* が使われる。

3-16 (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。【推量】

(तो) कदाचित उद्या येणार नाही.

(*to kadācit udyā ye-ṅār nāhi.*)
(he) may be tomorrow come-PROSP NEG.

「彼はたぶん明日来ないだろう。」

3-16の文について、「たぶん～だろう」という推量を示す表現に対し、マラーティー語では、「たぶん」を示す副詞 *kadācit* の後に動詞の前望相 *ye-ṅār* が使用される。

3-17 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。【疑念】

ते अजून आले नाहीत म्हणजे नक्की वाटेत त्यांची गाडी बिघडली असणार.

te ajun ā-l-e nāhi-t mhaṅje nakki vāṭe-t
they still come-PFV-MPL NEG-PL means surely think-IPFV
tyā-ṅ-ḷ-i gāḍi bighaḍa-l-i as-ṅār.
he-PL-GEN-FSG vehicle.F break-PFV-FSG be-PROSP

「彼らがまだ来ていないということは、きっと、彼らの車が壊れたかもしれない。」

3-17の文について、「きっと…じゃないか」という疑念を示す表現に対し、マラーティー語では、「きっと」を示す副詞 *nakki* の後に動詞の前望相 *as-ṅār* が使用される。

3-18 (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。【可能性】

(दुपारची वेळ आहे त्यामुळे) तो असेल की नाही माहित नाही.

(*dupār-ĉ-i veḷ āhe tyāmuḷe*) *to as-el ki*
 (afternoon-GEN-FSG time be.PRS therefore) he be-FUT or
nāhi māhit nāhi.
 NEG know NEG.

「(昼の時間のため) 彼はいるかいないか, わからない。」

3-18 の文について, 「かもしれない」という可能性を示す表現に対し, マラーティー語では, 「いるかいないか, わからない」を示す *as-el ki nāhi māhit nāhi* という表現が使われる。

3-19 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。【視覚／聴覚以外の感覚による判断】

(*kapālā-lā hāt lāvṭ tu-lā tāp āhe asa vāṭat-anya.*

(forehead-DAT hand.M put) you.SG-DAT fever.M be.PRS like think-seems
 「(額に触ってみて) あなたは熱があるみたいだ。」

3-19 の文について, 「ようだ」という感覚による判断を示す表現に対し, マラーティー語では, *it seems like that* を示す *asa vāṭat-anya* が使用される。

3-20 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。【伝聞】

(*havāmān andājā-nusār) udyā pāus paḍan-yā-ĉ-i śakyatā āhe.*

(weather forecast-according to) tomorrow rain.M fall-OBL-GEN-FSG possibility be.PRS.
 「(天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。」

3-20 の文について, 「そうだ」という伝聞示す表現に対し, マラーティー語では, 「～によれば, 可能性がある」を示す *-nusār... śakyatā āhe* という表現が使われている。

3-21 もしお金があつたら, あの車を買うんだけれどなあ。【反実仮想】

माइयाकडे पैसे असते तर मी ती कार विकत घेतली असती पण...

mā-jh-yā-kaḍe paise as-t-e tar mi ti kār vikat ghet-l-i as-t-i paṇ..
 my-GEN-OBL-PP money.MPL be-IMPV-NSG COR.then I that car.F buy take-PFV-FSG be-IMPV-FSG but...
 「私にお金があつたら, あの車を買うんだけれどなあ...」

3-21 の文について, 反実仮想を示す表現に対し, マラーティー語では, 反事実的条件「ならば～だろう」を示す構文 *as-t-e tar... as-t-e* を使用する。

3-22 もしあなたが教えてくれていなかったら, 私はそこにたどり着けなかったでしょう。【反実仮想過去】

तुम्ही मला सांगितले नसते तर मी तिथे पोहोचले नसते.

tumhi ma-lā sāṅgit-l-e nas-t-e tar mi tithe pohoc-l-e nas-t-e.
 you.PL I-DAT say-PFV-NSG NEG-IPFV-NSG COR.then I there reach-PFV-NSG NEG-IPFV-NSG
 「あなたが言わなかったら、私はそこにたどり着かなかっただろう。」

3-22 の文について、「～たら、～なかっただろう」という反実仮想過去を示す表現に対し、マラーティー語では、反事実的条件「ならば～だろう」を示す構文 *as-t-e tar... as-t-e* の否定形が使われる。

3-23 (あの人は) 街へ行きたがっている。【3 人称の主体による希望】

तिला शहरात जायची इच्छा आहे.

ti-lā śahar-ā-t jāya-ċ-i icchā āhe.
 she-DAT city-OBL-PP go-GEN-FSG desire be.PRS.
 「彼女には町へ行くという願望がある。」

3-23 の文について、「たがっている」という 3 人称主体の希望を示す表現に対し、マラーティー語では三人称単数の主語に与格が表れ、「願望がある」を意味する *icchā āhe* によって示される。

3-24 僕にもそれを少し飲ませろ。【1 人称命令】

मला पण थोडी पिऊ दे.

ma-lā paṇ thoḍi pi-u de.
 I-DAT also little drink-S.INF give.IMP.SG.
 「私にも少し飲ませろ。」

3-24 の文について、「飲ませろ」という 1 人称命令を示す表現に対し、マラーティー語では一人称単数の主語に与格が使われ、文末に *give* の命令形である *de* が表れている。

3-25 これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。【3 人称命令】

तिला हे घेऊन जायला सांगतो/घेऊन जाऊदे.

ti-lā he ghe-un jā-(a)y-lā sāṅg-t-o/ ghe-un jā-u-de.
 she-DAT this take-CVB go-L.INF-DAT say-IPFV-M/take-CVB go-PERM
 「彼女にこれを持って行かせましょう／持って行かせよう。」

3-25 の文について、3 人称命令を示す表現に対し、マラーティー語では三人称単数の主語に与格が使われ、「持って行かせる」は願望相を使った *ghe-un jā-(a)ylā sāṅg-t-o*, または許可 (permissive) を示す *ghe-un jā-u-de* によってあらわされる。

3-26 そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。【遠未来命令形】

त्या टेबलवरची मिठाई नंतर खा.

t-yā ṭebl-var-ċ-i miṭhāi nantar khā.
 that-OBL table-PP-GEN-FSG sweets.F later eat.IMP.
 「そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。」

3-26 の文について、「後で食べなさい」という遠未来命令形を示す表現に対し，マラーティー語では *nantar khā* (eat it later) という表現が使われる。

3-27 もっと早く来ればよかった。【反実仮想】

मी आधी आलो असतो/आले असते तर बरे झाले असते.

<i>mi</i>	<i>ādhi</i>	<i>ā-l-e</i>	<i>as-t-e</i>	<i>tar</i>	<i>bare</i>	<i>jhā-l-e</i>	<i>as-t-e</i> .
I	before	come-PFV-FSG	be-IPFV-NSG	COR.then	good	become-PFV-NSG	be-IPFV-NSG

「私が早く来ていたら，良かった。」

3-27 の文について，反実仮想を示す表現に対し，マラーティー語では，反事実的条件を示す構文 *as-t-e tar... as-t-e* が使われている。

3-28 あなたも一緒に行ったら（どうですか）？【脱従属化】

तू पण सोबत का येत नाहीस?

<i>tu</i>	<i>paṇ</i>	<i>sobat</i>	<i>kā</i>	<i>ye-t</i>	<i>nāhi-s?</i>
you.SG	also	together	why	come-IPFV	NEG-2SG

「あなたも一緒に来ないんですか？」

3-28 の文について，「行ったらどうですか」という脱従属化を示す表現に対し，マラーティー語では，*why don't you come..?*を意味する *kā ye-t nāhis* で表される。

3-29 オレがそんなこと知るか！【(疑問詞を含まない) 反語】

मला ते कसं माहित असेल!

<i>ma-lā</i>	<i>te</i>	<i>kasa</i>	<i>māhit</i>	<i>as-el!</i>
I-DAT	that	how	know	be-FUT!

「私がそれをどうやって知ることだろうか！」

3-29 の文について，「知るか!」という(疑問詞を含まない)反語を示す表現に対し，マラーティー語では，疑問詞を含む *kasa māhit as-el!* (how do I know it!) という表現が使われる。

3-30 これを作った(料理した)のは，お母さんだよ？/いいえ，私が作ったのよ。【付加疑問】

हे तुझ्या आईने बनवलं आहे ना?

<i>he</i>	<i>tu-jh-yā</i>	<i>āi-ne</i>	<i>banav-l-a</i>	<i>āhe</i>	<i>nā?</i>
this	you-GEN-OBL	mother-ERG	cook-PFV-NSG	be.PRS	ASSR

「これはあなたのお母さんが料理したんですね？」

नाही गं, मी केलं आहे.

<i>nāhi</i>	<i>ga,</i>	<i>mi</i>	<i>ke-l-a</i>	<i>āhe.</i>
NEG	ASSR	I	do-PFV-NSG	be.PRS.

「いいえ、私がしました。」

3-30 の文について、付加疑問を示す表現に対し、マラーティー語では、文末に強調 (Assertion) を意味する *nā?* が使われている。

以上、マラーティー語のモダリティーについて日本語と比較をしながら概観した。マラーティー語では、命令や勧誘を示すモダリティーは接尾辞 (suffixation) によって表され、「V てほしい」など、二つの動作がかかわる許可、禁止、義務、推奨、懇願、能力、確信、可能等の表現は主に複合語 (compounding process) によって示されることが分かった。また、反実仮想については、反事実的条件構文 *as-t-e tar...* *as-t-e* が使用され、推量、疑念、伝聞を示すためには文中に副詞が表れる。最後に、疑問や強調を示す際は日本語の終助詞に似た *ka?* や *na* などの接辞が文末に表れることも明らかになった。

4. 「ヴォイス」(語学研究所 第17号)

ヴォイスとは、行為を対象とした意味的な対立を表す(柴谷 1997, pp. 8). 本稿では、「ヴォイスとその周辺」についての風間 (2012) の総論、およびそこに提示されている例文をベースに、マラーティー語での状況を記述する。

【自動詞と他動詞の対立】

4-1-a (風などで) ドアが開いた。

(वाऱ्यामुळे वगैरे) दरवाजा उघडला गेला.

(*vāryā-muḷe* *vagaire*) *darvājā* *ughaḍ-l-ā* *ge-l-ā*.
(wind-PP etcetera) door.M open-PASSPTCP-MSG go-PFV-MSG
「(風などで) ドアが開けられた。」

4-1-b (彼が) ドアを開けた。

(त्याने) दरवाजा उघडला.

(*t-yā-ne*) *darvājā* *ughaḍ-l-ā*.
(he-OBL-ERG) door.M open-PFV-MSG.
「(彼が) ドアを開けた。」

4-1-c (入り口の) ドアが開けられた。

प्रवेशद्वार उघडले.

praveśadvār *ughaḍ-l-e*.
entrance.N open-PFV-NSG.
「入り口のドアが開いた。」

4-1-d ドアが壊れた。

दरवाजा तुटला.

darvājā *tuṭ-l-ā*.
door.M break down-PFV-MSG.
「ドアが壊れた。」

マラーティー語では、動作主が無生物であり、その動作が非意図的だった場合、4-1-a のように GO Passive が使われやすい。4-1-b は、典型的な他動詞文である。マラーティー語で「開ける」意味する *ughad-ne* は自動詞、他動詞ともに同じ形をとるため、動作主と目的語が表れることで他動性が示唆される。4-1-c は、日本語では受身形が使われているが、マラーティー語では自動詞的表現を使ったほうが自然である。同様に、4-1-d のように動作主が明示されず、非意図的な行為を示す場合は、日本語と同様に自動詞的表現が使われやすい。¹⁴

【自動詞からの使役、他動詞からの使役】

4-2 私は（自分の）弟を立たせた。

मी (माझ्या) लहान भावाला उभे केले.

<i>mi</i>	<i>(mā-jh-yā)</i>	<i>lahān</i>	<i>bhāvā-lā</i>	<i>ubhe</i>	<i>ke-l-e.</i>
I	(I-GEN-OBL)	small	brother-ACC	stand	do-PFV-NSG.

「私は（私の）弟を立たせた。」

4-3 私は（自分の）弟に歌を歌わせた。

मी (माझ्या) लहान भावाला गायला लावले.

<i>mi</i>	<i>(mā-jh-yā)</i>	<i>lahān</i>	<i>bhāvā-lā</i>	<i>gā-(a)y-lā</i>	<i>lāv-l-e.</i>
I	(I-GEN-OBL)	small	brother-ACC	sing-L.INF-DAT	MAKE-PFV-NSG.

「私は（私の）弟に歌わせた。」

4-2 は、自動詞からの使役を示している。マラーティー語でも、被使役主に対格の *-la* があらわれている。4-3 は、他動詞からの使役を示している。マラーティー語では、対格、与格の両方に *-la* が表れている。動詞の *lāv-ne* は、使役を示す MAKE の意味を持つ。¹⁵

【強制使役と許可使役】

4-4-a （遊びたがっている子供に無理やり）母は子供をパンを買いに行かせた。

(ज्या मुलाला खेळायचे होते त्याला) आईने ब्रेड आणायला पाठवले.

<i>(j-yā</i>	<i>mulā-lā</i>	<i>khel-āyc-e</i>	<i>hote</i>	<i>t-yā-lā</i>
(REL-OBL	child-DAT	play-PRED-NSG	be.PST	COR-OBL-DAT)
<i>āi-ne</i>	<i>breḍ</i>	<i>āñ-āy-lā</i>	<i>pāṭh-av-l-e.</i>	
mother-ERG	bread	bring-L.INF-DAT	send-CAUS-PFV-NSG.	

「（遊びたがっている子供に）母はパンを買いに行かせた。」

4-4-b （遊びに行きたがっているのを見て）母は子供に遊びに行かせた。

(मुलाला खेळायचे आहे हे पाहून) आईने मुलाला खेळू दिले.

¹⁴ パルデシ(2010) は、マラーティー語の自動詞と他動詞について、プロトタイプ的な例から非典型的なケースまで、包括的にまとめている。

¹⁵ Pardeshi (2016) によると、使役を示す *lāv-ne* (apply) は、間接使役に使われる傾向があり、自動詞からの使役にも他動詞からの使役にも対応する (pp. 134).

<i>(mulā-lā</i>	<i>kheḷ-āyc-e</i>	<i>āhe</i>	<i>he</i>	<i>pāh-un)</i>
(child-DAT	play-PRED-NSG	be.PRS	that	see-CVB)
<i>āi-ne</i>	<i>mulā-lā</i>	<i>kheḷ-u</i>	<i>di-l-e.</i>	
mother-ERG	child-DAT	play-S.INF	give-PFV-NSG.	

「(遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた。」

4-4-a は、強制使役を示している。マラーティー語では動詞の語幹に使役を示す *-av* が付加されている。一方、4-4-b は、許可使役である。この場合、マラーティー語では使役表現は使われず、不定詞に授受動詞が付加される複合動詞 *kheḷ-u di-l-e* (allowed to play) で示す。

【他動詞による表現と使役の違い、直接の行為か間接の行為か】

4-5-a 私は弟に服を着せた。

मी माझ्या लहान भावाला कपडे घालून दिले.

<i>mi mā-jh-yā</i>	<i>lahān</i>	<i>bhāvā-lā</i>	<i>kapḍe</i>	<i>ghāl-un</i>	<i>di-l-e.</i>
I	my-GEN-OBL	small	brother-DAT	clothes	add-CVB give-PFV-NSG.

「私は私の弟に服を着せた。」

4-5-b 私は弟にその服を着させた。

मी माझ्या लहान भावाला ते कपडे घालायला लावले.

<i>mi mā-jh-yā</i>	<i>lahān</i>	<i>bhāvā-lā</i>	<i>te</i>	<i>kapḍe</i>	<i>ghāl-āy-lā</i>	<i>lāv-l-e.</i>
I	my-GEN-OBL	small	brother-ACC	that	clothes	add-L.INF-DAT MAKE-PFV-NSG.

「私は私の弟にその服を着させた。」

4-5-a は、日本語では他動詞による表現である。マラーティー語では、副動詞 (converb) に授受動詞が付加され、複合動詞 *ghāl-un di-l-e* (put in) によって表される。非使役主には、与格の *-la* が付加される。4-5-b は、間接的行為を示す使役である。マラーティー語では動詞の語幹に不定詞が付加され、複合動詞 *ghāl-āy-lā lāv-l-e* (made to wear) によって表される。非使役主には、対格の *-la* が使われる。

【やりもらい、(話者から見ての) 授恩恵と受恩恵の違い】

4-6 私は弟にその本をあげた。

मी माझ्या लहान भावाला ते पुस्तक दिले.

<i>mi mā-jh-yā</i>	<i>lahān</i>	<i>bhāvā-lā</i>	<i>te</i>	<i>pustak</i>	<i>di-l-e.</i>
I	I-GEN-OBL	small	brother-DAT	that	book.N give-PFV-NSG.

「私は私の弟にその本をあげた。」

4-7-a 私は弟に本を読んであげた。

मी माझ्या लहान भावाला पुस्तक वाचून दाखविले.

<i>mi mā-jh-yā</i>	<i>lahān</i>	<i>bhāvā-lā</i>	<i>pustak</i>	<i>vāc-un</i>	<i>dākhvi-l-e.</i>
I	I-GEN-OBL	small	brother-DAT	book.N	read-CVB show-PFV-NSG.

「私は私の弟に本を読み上げた。」

4-7-b 兄は私に本を読んでくれた.

माझ्या मोठ्या भावाने मला पुस्तक वाचून दाखविले.

mā-jh-yā moṭhyā bhāv-ā-ne ma-lā pustak vāc-un dākhavi-l-e.
 my-GEN-OBL big brother-OBL-ERG I-DAT book.N read-CVB show-PFV-NSG.
 「私の兄は私に本を読み上げた。」

4-6 は、遠心的な物の移動を示す文である。マラーティー語では、give を意味する *di-l-e* が使われる。4-7-a と 4-7-b は、授恩恵「あげる」と受恩恵「くれる」の違いを示す文である。マラーティー語では、受益者に与格が表れ、動詞はいずれも複合動詞で「read out」を意味する *vāc-un dākhavi-l-e* が使われる。

【テモラウ】

4-7-c 私は母に髪を切ってもらった.

मी आईकडून माझे केस कापून घेतले.

mi āi-kaḍun mā-jh-e kes kāp-un ghet-l-e.
 I mother-by I-GEN-NSG hair.M cut-CVB take-PFV-NSG.
 「私は母に私の髪を切ってもらった。」

4-7-c は、恩恵の授受の表現を示す「てもらう」を含む文である。マラーティー語では、動作主に「～から」を意味する後置詞 *-kaḍun* が付加され、「cut off」を意味する複合動詞 *kāp-un ghet-l-e* によって示される。

【再帰】

4-8-a 私は（自分の）体を洗った.

मी (माझे) अंग धुतले.

mi (mā-jh-e) aṅga dhut-l-e.
 I (I-GEN-NSG) body.N wash-PFV-NSG.
 「私は（私の）体を洗った。」

4-8-b 私は手を洗った.

मी हात धुतले.

mi hāt dhut-l-e.
 I hand.NPL wash-PFV-NPL
 「私は手を洗った。」

4-8-c 彼は手を洗った.

त्यानी हात धुतले.

t-yā-ni hāt dhut-l-e.
 he-OBL-ERG hand.NPL wash-PFV-NPL.
 「彼は手を洗った。」

4-8-a~4-8-c は、再帰表現である。マラーティー語は、日本語と同様、任意で名詞に「自分の（私の）」が付加され、再帰を示唆する。

【自利態】

4-9 (自分のために) 私はその本を買った。

(माझ्यासाठी) मी ते पुस्तक विकत घेतले.

(*mā-jh-yā-sāṭhi*) *mi* *te* *pustak* *vikat* *ghet-l-e*.

(I-GEN-OBL-for) I that book.N buy take-PFV-NSG.

「(私のために) 私はその本を買った。」

4-9 は、再帰表現によく似た自利態である。マラーティー語では、名詞に「自分のために」が付加され、動詞は「買った」を意味する *vikat ghet-l-e* が使われている。

【相互】

4-10 彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた。

ते (/ते लोक) (एकमेकांना) मारत होते.

te (*/te lok*) (*ekamekānnā*) *mār-at* *hote*.

they (/those people) (each other) beat-PL be.PST.

「彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた。」

4-10 は、相互態を示す。マラーティー語は、「互いに」を示す任意の副詞句によって相互性を示す。

【衆動】

4-11 その人たちは (みんな一緒に) 街へ行った。

ते (सगळे एकत्र) शहरात गेले.

te (*sagaḷe ekatra*) *śahar-ā-t* *ge-l-e*.

they (all together) city-OBL-PP go-PFV-NSG.

「彼らは (みんな一緒に) 街へ行った。」

4-11 は、衆動を示す。マラーティー語では、(みんな一緒に) を意味する (*sagaḷe ekatra*) が使われている。

【自発】

4-12 その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう)。

तो चित्रपट मला रडवितो. (तो चित्रपट पाहिला की मला रडू येते).

to *citrapaṭ* *ma-lā* *raḍ-av-i-t-o*.

that movie.M I-DAT cry-CAUS-OBL-IPFV-MSG

(*to* *citrapaṭ* *pāhi-l-ā* *ki* *ma-lā* *raḍ-u* *ye-t-e*).

(that movie.M watch-PFV-M then I-DAT cry-S.INF COME-IPFV-NSG.)

「その映画は私を泣かせる (その映画を見ると私は泣いてしまう).」

4-12は，自発を示す．この場合，マラーティー語では，無生物（映画）を主語とした使役形，または，「それを見ると私に涙が来る」のような表現が使われる．

【意志／無意志】

4-13-a 私は卵を割った．

मी अंडे फोडले.

mi ande phoḍ-l-e.
I egg.NSG break-PFV-NSG.
「私は卵を割った.」

4-13-b (うっかり落として) 私はコップを割った／割ってしまった．

मी कप फोडला.

mi kap phoḍ-l-ā.
I cup.M break-PFV-MSG.
「私はコップを割った.」

(चुकून पडल्यामुळे) माझ्या हातून कप फुटला.

(cuk-un paḍ-l-yā-muḷe) mā-jh-yā hāt-ūn kap phuṭ-l-ā.
(accidentally-CVB fall-PFV-OBL-PP) I-GEN-OBL hand-from cup.M break-PFV-MSG.
「(うっかり落として) コップが私の手から壊れた.」

私はコップを (故意に) 割った.

मी (मुद्दाम) कप फोडला.

mi (muddām) kap phoḍ-l-ā.
I (purposely) cup.M break-PFV-MSG.
「私は (故意に) コップを割った.」

4-13-a, 4-13-b は，意志と無意志の対立を示している．マラーティー語では，意志を示す「割る」という動詞には他動詞 *phoḍ-ṇe* が使われている．一方，無意志的な「(うっかり落として) 割れた」という表現に対しては，「壊れた」を意味する自動詞 *phuṭ-ṇe* が使われる．¹⁶

【随意の不可能と不随意の不可能】

4-14-a きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった．

काल खूप कॉफी प्यायल्यामुळे मी झोपू शकले नाही.

kāl khup kōphi pyāy-l-yā-muḷe mi jhop-u śak-l-e nāhi.
yesterday a lot coffee.F drink-PFV-OBL-PP I sleep-S.INF can-PFV-NSG NEG.
「きのうたくさんコーヒーを飲んだので私は眠れなかった.」

¹⁶ パルデシ (2010) は，マラーティー語の自他動詞の意志性について，責任とコントロールの関係性によって変化すると述べている．

4-14-b きのうち私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった.

काल मला खूप काम होते म्हणून मी झोपू शकले नाही.

kal ma-lā khup kām hote mhaṇun mi jhop-u śak-l-e nāhi.
yesterday I-DAT a lot work.N be.PST therefore I sleep-S.INF can-PFV-NSG NEG.

「きのう私にはたくさん仕事があったので私は眠れなかった。」

4-14-a, 4-14-b は, 随意の不可能と不随意の不可能を示している. マラーティー語では, 理由を示す後置詞 *-mule* または接続詞 *mhaṇun* が表れ, 後件にはいずれも「眠ることができなかった」を示唆する *jhop-u śak-l-e nāhi* が使われている.

【全体と部分・主体・一時的】

4-15 私は頭が痛い.

माझे डोके दुखत आहे.

mā-jh-e doke dukha-t āhe.
I-GEN-NSG head.N pain-PP be.PRS.

「私の頭が痛みの中にある。」

4-15 は, 体の一部である頭が, 一時的に痛いことを示している. マラーティー語では, 「私の頭が痛みの中にある」という表現を使っている.

【全体と部分・主体・恒常的】

4-16 彼女は髪が長い.

तिचे केस लांब आहेत.

ti-c-e kes lāmb āhe-t.
she-GEN-MPL hair.M long be.PRS-PL.

「彼女の髪は長い。」

4-16 は, 体の一部である髪が長いことを示している. マラーティー語では, 「彼女の髪は長い」という表現を使っている.

【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

4-17-a 彼は (別の) 彼の肩をたたいた.

त्याने त्याच्या (दुसऱ्याच्या) खांद्यावर थाप मारली.

t-yā-ne tyā-ē-yā (dusryā-ē-yā) khānd-yā-var thāp mār-l-i.
he-OBL-ERG he-GEN-OBL (different-GEN-OBL) shoulder-OBL-PP slap hit-PFV-FSG.

「彼は彼の (別の) 肩の上をたたいた。」

4-17-b 彼は (別の) 彼の腕をつかんだ.

त्याने त्याचा (दुसऱ्याचा) हात धरला.

t-yā-ne *tyā-c-yā* (*duśryā-c-yā*) *hāt* *dhar-l-ā*.
 (he-OBL-ERG) he-GEN-OBL (different-GEN-OBL) arm.M hold-PFV-MSG.
 「彼は彼の(別の)腕をつかんだ。」

4-17-a, 4-17-b は，体の一部である肩や腕を，たたいたりつかんだりする動作を示している．マラーティー語では，「彼の別の肩の上をたたいた」や，「彼の別の腕をつかんだ」という表現を使う．

【知覚構文】

4-18-a 私は彼がやって来るのを見た．

मी त्याला येताना पहिले.

mi *t-yā-lā* *ye-tānā* *pahi-l-e*.
 I he-OBL-DAT come-while see-PFV-NSG.
 「私は彼がやって来るのを見た。」

4-18-b 私は彼が今日来ることを知っている．

तो आज येणार हे मला माहित आहे.

to *āj* *ye-ṅār* *he* *ma-lā* *māhit* *āhe*.
 he together come-PROSP this I-DAT know be.PRS.
 「彼が今日来ることを私は知っている。」

4-18-a, 4-18-b は，「見る」や「知る」などの知覚構文を示している．マラーティー語では，「～のを見た」を示す際には I saw while A is coming を意味する *ye-tānā pahi-l-e* が使われ，「～を知っている」を示す際には I know that... を意味する与格構文 *ma-lā māhit āhe* を使う．

【引用文中の再帰】

4-19 彼は自分(のほう)が勝つと思った．

त्याला वाटले की तो (स्वतः) जिंकेल.

t-yā-lā *vāt-l-e* *ki* *to* (*svataḥ*) *jīnk-el*.
 he-OBL-DAT fell-PFV-NSG that he (self) win-FUT.
 「彼は自分が勝つと思った。」

4-19 は，引用文中の再帰を示している．マラーティー語では，引用中の再帰は三人称代名詞が主語となり，さらに「自分」を意味する *svataḥ* が使われる．

【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

4-20-a 私は(コップの)水(の一部)を飲んだ．

मी (ग्लासमधले) (थोडे) पाणी प्यायले.

mi (*glās-madhle*) (*thoḍe*) *pāṇi* *pyāy-l-e*.
 I (glass-in) (little) water.N drink-PFV-NSG.
 「私は(コップの中の)(すこし)水を飲んだ。」

4-20-b 私は（コップの）水を全部飲んだ。

मी (ग्लासमधले) सगळे पाणी प्यायले.

mi (glās-madhle) *sagaḷe* *pāṇi* *pyāy-l-e*.
I (glass-in) all water.N drink-PFV-NSG.

「私は（コップの中の）すべての水を飲んだ。」

4-20-a, 4-20-b は、部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作を示す文である。マラーティー語では、「少し」を意味する *thode* または「すべて」を意味する *sagaḷe* を使って動作の対象が全体か一部かを示している。

【恒常的な否定文】

4-21 彼は肉を食べない。

तो मांस खात नाही.

to *māns* *khā-t* *nāhi*.
he meat.N eat-IPFV NEG.

「彼は肉を食べない。」

4-21 は、恒常的否定文を示している。マラーティー語では、無生物の目的語には対格マーカーが表れず、動詞には未完結相が使われている。

【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない、より客観的な表現】

4-22-a 今日は寒い。

आज थंड आहे.

āj *thaṇḍa* *āhe*.
today cold be.PRS.

「今日は寒い。」

4-22-b 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。

मला जरा थंडी जाणवते आहे.

ma-lā *jarā* *thaṇḍi* *jāṇav-t-e* *āhe*.
I-DAT just cold feel-IPFV-NSG be.PRS.

「私には少し寒く感じる。」

4-22-a は、感覚述語¹⁷を示している。マラーティー語では、「寒い」という意味の感覚述語 *thaṇḍa āhe* (is cold) によって表される。一方、4-22-b は、文中に感覚主体が表れている。この場合、マラーティー語では、与格主語構文 *ma-lā* が使われる。動詞には、「感じる」を意味する *jāṇav-ṇe* が使われている。

¹⁷ パルデシ (2013) は、温度形容詞についての対照研究を行い、日本語は大気温度と体感温度が同じ構文で表されるのに対し、マラーティー語は物体温度、大気温度、体感温度をそれぞれ別々の構文で表すことを指摘した。

【(感情主体が受動的である)感情述語】

4-23 人がとても多かったことに私は驚いた。

बरेच लोक होते याचे मला आश्चर्य वाटले.

barec lok hote yā-c-e ma-lā āścarya vāt-l-e.
 many people be.PST this-GEN-NSG I-DAT surprise feel-PFV-NSG.

「たくさんの人がいたことに私は驚きを感じた。」

4-23 は、(感情主体が受動的である)感情述語を示している。マラーティー語では、与格主語構文 *ma-lā* が使われ、動詞には「驚きを感じた」を意味する *āścarya vāt-l-e* が使われる。

【現象文・現場での直接体験】

4-24 雨が降り始めた。

पाऊस पडायला लागला.

pāus paḍ-āy-lā lāg-l-ā.
 rain.M fall-L.INF-DAT begin-PFV-MSG.

「雨が降り始めた。」

4-24 は、現象文であり、現場での直接体験を示している。マラーティー語では、主語に「雨」を意味する *pāus* が表れ、動詞は「降り始めた」を意味する複合動詞 *paḍ-āy-lā lāg-l-ā* が使われる。この「降る」を意味する *paḍ-ṇe* には、「雨」の意は含まれていない。

【中間構文】

4-25 この本はよく売れる。

हे पुस्तक चांगले विकले जाते.

he pustak cāṅgle vik-l-e jā-t-e.
 this book.N good sell-PASSPTCP-NSG go-IPFV-NSG.

「この本はよく買われている。」

4-25 は、中間構文と言われる。マラーティー語では、GO Passive を用いた受身表現を使用する。

以上、マラーティー語のヴォイスについて日本語と比較をしながら概観した。日本語の使役表現「せる・させる」は使用範囲が多岐にわたるが、マラーティー語では、直接使役か間接使役かによって表現が異なり、さらに場面によっては授受表現や複合動詞によっても使役を示唆する。授受表現について、日本語の「てくれる」は、マラーティー語も英語と同様に該当する動詞がなく、受益者に与格が表れることで動作の方向性を示す。再帰的表現は、マラーティー語も日本語と同様に「自分の」や「互いに」など副詞的表現を用いて示す。意志・無意志を示すヴォイスについては、マラーティー語にも自動詞・他動詞の区別がある。感覚や感情を示す際、マラーティー語は与格主語構文を使用する。

5. 「所有・存在表現」(語学研究所 第18号)

所有とは、人間とその親族、身体部分、物理的な所有物、文化的・知的産物との関係である (Saier 1983, 和訳: 今村 2017, pg. 8). マラーティー語と同じインド・ヨーロッパ語族に属するヒンディー語とウルドゥー語は、have に該当する「持つ」型表現がなく、「ある」型言語であると言われている。マラーティー語にも同様の傾向が期待される。

【一体的な、恒常的な所有】

5-1 あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人

तिचे डोळे निळे आहेत.

ti-c-e *ḍoḷ-e* *niḷe* *āhe-t.*
she-GEN-MPL eye-M.PL blue be.PRS-PL.
「彼女の目は青い。」

निळे डोळे असलेली व्यक्ती

niḷe *ḍoḷ-e* *as-lel-i* *vyakti*
blue eye-M.PL be-PST.PTCP-FSG person.F
「青い目の人」

5-2 あの女 {は/の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女・髪の長い女

तिचे केस लांब आहेत.

ti-c-e *kes* *lāmb* *āhe-t.*
she-GEN-MPL hair.M long be.PRS-PL
「彼女の髪は長い。」

लांब केस असलेली स्त्री

lāmb *kes* *as-lel-i* *stri*
long hair.M be-PST.PTCP-FSG woman.F
「長い髪の女性」

5-1 と 5-2 は、所有者と所有物が一体的な、恒常的な所有を示している。いずれも一行目は形容詞文であり、英語でいう「持つ」型の所有を示す。マラーティー語は、日本語と同様に「X の Y は Adjective だ。」を意味する構文 X-c-e Y Adjective *āhe-t* を取る。二行目の文は属格を用いた文である。この場合、マラーティー語では被修飾名詞が文末に表れ、修飾節内に過去分詞 *-lel* を含む。

【非普通所有物】

5-3 あの人には髭がある。／髭の男

त्याला दाढी आहे.

t-yā-lā *dāḍhi* *āhe.*
he-OBL-DAT beard.F be.PRS.

「あの人には髭がある。」

दाढी असलेला माणूस

dāḍhi as-lel-ā māṇus
beard.F be-PST.PTCP-MSG man.M
「髭のある男」

5-3 は、非普通所有物を示している。「あの人には髭がある」という表現に対し、マラーティー語は与格主語構文を用いる。一方、「髭の男」という表現に対しては、修飾節内に過去分詞 *-lel* を含む構文が使われる。

【慣用句的表現】

5-4 あの人は（見る）目がある。／見る目のある人

त्याला चांगली पारख करण्याची नजर आहे.

t-yā-lā cāṅgli pārkhā kar-ṇyā-ḥ-i najar āhe.
he-OBL-DAT good examination.F do-OBL-GEN-FSG vision.F be.PRS.
「彼には優れた洞察をする目がある。」

चांगली पारख असलेला माणूस

cāṅgli pārkhā as-lel-ā māṇus
good examination.F be-PST.PTCP-MSG man.M
「優れた洞察力のある男」

5-4 は、慣用句的表現である。マラーティー語に直訳ができる慣用句はないが、上記のように日本語の意味をくみ取った訳を作成することは可能である。

【側面語のある表現】

5-5 あの人は 22 歳だ。／22 歳の人

ती व्यक्ती २२ वर्षाची आहे.

ti vyakti 22 varṣā-ṅ-ḥ-i āhe.
that person.F 22 year-PL-GEN-FSG be.PRS.
「あの人は 22 歳だ。」

२२ वर्षाची व्यक्ती

22 varṣā-ṅ-ḥ-i vyakti
22 year-GEN-FSG person.F
「22 歳の人」

5-6 あの人は優しい性格だ。／優しい性格の人

ती व्यक्ती दयाळू स्वभावाची आहे.

ti vyakti dayālu svabhāvā-č-i āhe.
that.F person.F kind nature-GEN-FSG be.PRS.
「あの人は優しい性格だ。」

दयाळू व्यक्ती

dayālu vyakti
kind person.F
「優しい人」

5-7 あの人は背が高い。 / 背の高い人

ती व्यक्ती उंच आहे.

ti vyakti uñc āhe.
that.F person.F tall be.PRS.
「あの人は背が高い。」

उंच व्यक्ती

uñc vyakti
tall person.F
「背が高い人」

5-8 あの人は背が 190 センチもある。

त्या व्यक्तीची ऊंची १९० सेमी आहे.

t-yā vyakti-č-i uñc-i 190 semi āhe.
that-OBL person-GEN-FSG tall-F 190 centimeter be.PRS.
「彼の身長は 190 センチだ。」

5-9 その石は四角い形をしている。 / 四角い (形の) 石

त्या दगडाचा आकार चौकोनी आहे.

t-yā dagaḍā-c-ā ākār caukoni āhe.
that-OBL stone-GEN-MSG form.M quadrangular be.PRS.
「その石の形は四角だ。」

चौकोनी दगड

caukoni dagḍ
quadrangular stone.M
「四角い石」

5-5~5-9 は、形や性格、もしくはそれに類する語 (側面語) を含む文である。各例文の一行目にある「X は (側面語) だ」について、マラーティー語は、述語に属格を含む (5-5, 5-6) か、形容詞文 (5-7, 5-9) によってあらかず。各例文の二行目にある「(側面語) の X」について、マラーティー語は、(名詞+属

格) + 名詞 (5-5), または形容詞 + 名詞 (5-6, 5-7, 5-9) によってあらわす.

【属性】

5-10 あの人には才能がある. / 才能のある人

ती व्यक्ति कुशल आहे.

ti vyakti kuśal āhe.
that person.F skillful be.PRS.
「あの人は, 優秀だ.」

कुशल व्यक्ति

kuśal vyakti
skillful person.F
「優秀な人」

【一時的属性】

5-11 あの人は病気だ. / あの人は熱がある. / 病気の人

ती व्यक्ति आजारी आहे.

ti vyakti ājāri āhe.
that person.F sick be.PRS.
「あの人は病気だ.」

त्या व्यक्तीला ताप आहे.

t-yā vyakti-lā tāp āhe.
that-OBL person-DAT fever.M be.PRS.
「あの人には熱がある.」

आजारी व्यक्ति

ājāri vyakti
sick person.F
「病気の人」

【衣類等 1】

5-12 あの人は青い服を着ている. / 青い服の男

त्या व्यक्तीने निळे कपडे घातले आहेत.

t-yā vyakti-ne niḷe kapḍ-e ghāt-l-e āhe-t.
that-OBL person-ERG blue cloth-PL wear-PFV-NSG be.PRS-PL.
「あの人は青い服を着ている.」

निळे कपडे घातलेला माणूस

<i>niḷe</i>	<i>kapaḍ-e</i>	<i>ghāt-lēl-ā</i>	<i>māṇus</i>
blue	cloth-PL	wear-PST.PTCP-MSG	man.M

「青い服を着た男」

【衣類等 2】

5-13 あの人はメガネをかけている。 / メガネの男

त्या व्यक्तीने चश्मा घातला आहे.

<i>t-yā</i>	<i>vyakti-ne</i>	<i>caśmā</i>	<i>ghāt-l-ā</i>	<i>āhe.</i>
that-OBL	person-ERG	spectacles.M	wear-PFV-MSG	be.PRS.

「あの人は眼鏡をかけている。」

चश्मा घातलेला माणूस

<i>caśmā</i>	<i>ghāt-lēl-ā</i>	<i>māṇus</i>
spectacles.M	wear-PST.PTCP-MSG	man.M

「眼鏡をかけた男」

5-10～5-13 は、属性と衣類の所有傾斜を示す文である。マラーティー語では、属性に対しては「形容詞＋名詞」の構文を作ることができる (5-10, 5-11) が、衣類等の所有については、過去分詞を用いた修飾文によってあらかず (5-12, 5-13).

【親族の所有 1】

5-14 あの人には妻がいる。 / 既婚の人・妻のいる人

त्याला पत्नी आहे.

<i>t-yā-lā</i>	<i>patni</i>	<i>āhe.</i>
he-OBL-DAT	wife.F	be.PRS.

「あの人には妻がいる。」

लग्न झालेली व्यक्ती

<i>lagna</i>	<i>jhā-lēl-i</i>	<i>vyakti</i>
marridge.N	happen-PST.PTCP-FSG	person.F

「結婚した人」

पत्नी असलेला माणूस

<i>patni</i>	<i>as-lēl-ā</i>	<i>māṇus</i>
wife.F	be-PST.PTCP-MSG	man.M

「妻のいる男」

【親族の所有 2】

5-15 あの人には3人子供がいる。／3人の子持ちの人・あの人の3人の子供／妊娠している女性

त्याला तीन मुले आहेत.

t-yā-lā *tin* *mul-e* *āhe-t.*
he-OBL-DAT three child-PL be.PRS-PL.
「彼には3人子供がいる。」

तीन मुले असलेला माणूस

tin *mul-e* *as-lel-ā* *māṇus*
three child-PL be-PST.PTCP-MSG man.M
「3人の子供がいる男」

गर्भवती स्त्री

garbhavati *stri*
pregnant.F woman.F
「妊婦」

5-14 と 5-15 は、親族の所有を示す文である。「あの人には親族がいる」という文に対して、マラーティー語では、与格主語構文を使う。「既婚の人」や「子供がいる男」のような文には、過去分詞を用いた修飾文を用いる。

【普遍的な事実】

5-16 タコには足が8本ある。

ऑक्टोपसला आठ पाय असतात.

ōkṭopas-lā *āṭh* *pāya* *as-t-āt.*
octopus-DAT eight foot.M be-IPFV-PL.
「タコには8本の足がある。」

5-16 は、普遍的な事実を示す文である。「タコには足がある」という全体と部分の所有を示すために、マラーティー語は与格主語構文を使用する。また、普遍性を示すために、動詞の語幹に未完結相があらわれる。

【ともに無生物, 含有物】

5-17 その飲み物にはアルコールが入っている。／アルコール入りの飲み物

त्या पेयामध्ये अल्कोहोल आहे.

t-yā *peyā-madhyē* *alkōhōl* *āhe.*
that-OBL drink-PP alcohol be.PRS.
「その飲み物の中にアルコールがある。」

अल्कोहलयुक्त पेय

alkōhōl-yukta *peya*
 alcohol-contain drink.F
 「アルコールを含む飲み物」

5-17 は、所有側と被所有側がともに無生物の所有を示す。マラーティー語では、「飲み物の中にアルコールがある」、または「アルコールを含む飲み物」という表現を使う。

【もつとも一般的な所有， やや恒常的】

5-18 あの人はお金を持っている。／お金持ちの人

त्या व्यक्तीकडे पैसे आहेत.

t-yā *vyakti-kaḍe* *paise* *āhe-t.*
 that-OBL person-PP money.MPL be.PRS-PL.
 「あの人はお金を持っている。」

श्रीमंत व्यक्ती

śrimant *vyakti*
 rich person.F
 「お金持ちの人」

【所有， やや恒常的， 所有物は有生・家畜】

5-19 おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

तुझ्याकडे कुत्रा आहे का?

tu-jh-yā-kaḍe *kuṭrā* *āhe* *kā?*
 you.SG-GEN-OBL-PP dog.M be.PRS Q?
 「お前のところに犬がいるか？」

कुत्रा पाळलेली व्यक्ती

kuṭrā *pāḷ-lel-i* *vyakti*
 dog.M feed-PST.PTCP-FSG person.F
 「犬を飼っている人」

【一時的携帯物・自分のもの】

5-20 おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人

तुझ्याकडे (स्वतःचा) पेन आहेस का?

tu-jh-yā-kaḍe (*svataḥ-c-ā*) *pen* *āhe-s* *kā?*
 you-GEN-OBL-PP (self-GEN-MSG) pen be.PRS-2SG Q?
 「きみは（自分の）ペンがあるか？」

पेन असलेली व्यक्ती

pen as-lel-i vyakti
pen be-PST.PTCP-FSG person.F
「ペンのある人」

【一時的携帯物・他人のもの】

5-21 あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている.

त्याच्याकडे (कोणा दुसऱ्याचा) पेन आहे.

t-yā-č-yā-kaḍe (koṇā dusr-yā-c-ā) pen āhe.
that-OBL-GEN-OBL-PP (who another-OBL-GEN-MSG) pen be.PRS.
「あの人は（誰かの）ペンを持っている。」

5-18~5-21 は、「人がモノ（または家畜）」を所有していることを示している, マラーティー語では「Xのところに Y がある」の意味を持つ *X-kade Y ahe* 構文が使われる. これは, ヒンディー語の所有を示す *X ke pas Y hona* 構文と類似している.

【抽象的・一時的所有物】

5-22 あの人は運がいい. / 幸運な人

त्याचे नशीब चांगले आहे.

t-yā-c-e našib cāṅgle āhe.
that-OBL-GEN-NSG fate.N good be.PRS.
「あの人の運は良い。」

भाग्यवान व्यक्ती

bhāgyavān vyakti
fortunate person.F
「幸運な人」

5-22 は, 抽象的所有を示す文である. 「あの人は運がいい」という文に対し, マラーティー語では, 「あの人の運」について「よい」という状態を示す訳となる.

【恒常的存在>状態/性質】

5-23 ここは石が多い. / 石の多い土地

इथे खूप दगड आहेत.

ithe khup dagaḍ āhe-t.
here many stone.M be.PRS-PL
「ここはたくさん石がある。」

खडकाळ जमीन

khaḍakāl jamin
rockey ground.F
「石地」

【非恒常的存在と数量】

5-24 その部屋には椅子が3つある／3つ椅子のある部屋

त्या खोलीत तीन खुर्च्या आहेत.

t-yā kholi-t tin khurc-yā āhe-t.
that-OBL room-PP three chair-PL be.PRS-PL.
「その部屋には3つ椅子がある。」

तीन खुर्च्या असलेली खोली

tin khurc-yā as-lel-i kholi
three chair-PL be-PST.PTCP-FSG room.F
「3つ椅子がある部屋」

【存在・存在が新情報】

5-25 テーブルの上にスプーンがある．／スプーンのあるテーブル

टेबलावर चमचा आहे.

ṭebl-ā-var camcā āhe.
table-OBL-PP spoon.MSG be.PRS.
「テーブルの上にスプーンがある。」

चमचा असलेले टेबल

camcā as-lel-e ṭebl
spoon.MSG be-PST.PTCP-NSG table
「スプーンがあるテーブル」

【所在・場所が新情報】

5-26 そのスプーンはテーブルの上にある．／テーブルにあるスプーン

तो चमचा टेबलावर आहे.

to camcā ṭebl-ā-var āhe.
that.M spoon.MSG table-OBL-PP be.PRS.
「そのスプーンはテーブルの上にある。」

टेबलावरचा चमचा

ṭebl-ā-var-c-ā camcā
table-OBL-PP-GEN-MSG spoon.MSG

「テーブル上のスプーン」

5-23～5-26 は、物の存在を示す文である。マラーティー語では、「石の多い土地」のような言葉については形容詞が存在するが、非恒常的な存在を示す「椅子がある部屋」「スプーンがあるテーブル」のような表現については、過去分詞を使う。5-26 のように、存在の場所が新情報の場合は、「テーブル上のスプーン」のように属格を使って表現する。

【所有物、属格のプロトタイプ】

5-27 そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。／私のペン・太郎のペン

ते पेन माझे आहे.

te pen mā-jh-e āhe.

that.N pen.N I-GEN-NSG be.

「そのペンは私のだ。」

ते पेन तारोचे आहे.

te pen tāro-c-e āhe.

that.N pen.N Taro-GEN-NSG be.PRS.

「そのペンは太郎のだ。」

माझे पेन, तारोचे पेन

mā-jh-e pen, tāro-c-e pēn

I-GEN-NSG pen, Taro-GEN-NSG pen

「私のペン, 太郎のペン」

5-27 は、所有物、属格のプロトタイプを示す文である。マラーティー語は、日本語と同様に所有物を属格を用いた形式名詞で示す。

【できごとの生起】

5-28 昨日、学校で火事があった。／私は明日用事があります。

काल शाळेत आग लागली होती.

kāl śāḷe-t āg lāg-l-i hoti.

yesterday school-PP fire.F catch-PFV-FSG be.PST.

「昨日学校で火事があった。」

मला उद्या काम आहे.

ma-lā udyā kām āhe.

I-DAT tomorrow work.N be.PRS.

「私には明日仕事がある。」

【実在文】

5-29 (この世には) お化けなんていない。

(या जगात) भूते अस्तित्वात नाहीत.

(yā jagā-t) bhut-e astitvāt nāhi-t.

(this world-PP) goast-PL exist NEG-PL.

「(この世には) お化けは存在しない。」

5-28 と 5-29 は、できごとの生起、または存在文を示す文である。5-28 の一行目は、マラーティー語でも無生物を主語としている。二行目は、有生物を主語としている。この場合、マラーティー語は与格主語構文を使用する。5-29 の実在文において、マラーティー語は無生物主語のできごと生起文と同じ構文を取る。

【絶対存在文 1】

5-30 (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

(तिथे) काही इंग्रजी बोलणारे आणि काही इंग्रजी न बोलणारे लोक आहेत.

(tithe) kāhi ingraji bol-ṅār-e āṇi kāhi ingraji na

(there) some English talk-PRS.PTCP-NSG and some English NEG

bol-ṅār-e lok āhe-t.

talk-PRS.PTCP-NSG people be.PRS-PL.

「(そこには) 英語を話す人々も話さない人々もいる。」

【絶対存在文 2】

5-31 私より英語ができる人は (ほかに/もつと) います。

माझ्यापेक्षा चांगले इंग्रजी बोलणारे (इतर सुद्धा) लोक आहेत.

mā-jh-yā-pekṣā cāṅgle ingraji bol-ṅār-e (itar suddhā) lok āhe-t.

I-GEN-OBL-than good English talk-PRS.PTCP-NSG (other too) people be.PRS-PL

「私よりよい英語が話せる人は (ほかに) もいる。」

5-30 と 5-31 は、絶対存在文である。マラーティー語では、いずれも修飾部に現在分詞を用いて表現している。

【抽象的なことの所有・発話内効力のある文】

5-32 ちょっとあなたにお願いがあります。

माझी एक विनंती आहे.

mā-jh-i ek vinanti āhe.

I-GEN-FSG one request.F be.PRS.

「私の一つお願いがあります。」

5-32 は、抽象的なことの所有を示す文である。この場合、マラーティー語では発話者の所有物として、「一つお願いがある」という表現を使う。

【時間・場所】

5-33 冬の雨／東京の家

हिवाळ्यातला पाऊस

hivāl-yātlā *pāus*
winter-PP rain.M
「冬中の雨」

टोकियोमधील घर

tokiyo-madhil *ghar*
tokyo-PP house.N
「東京にある家」

5-33 は、時間・場所を示す文である。マラーティー語では、いずれも属格は使用されず、後置詞を使って表現する。

【B が行為を示す名詞である場合の主体、客体／対象、A の生産物である B】

5-34 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発／車の運転／～の小説

त्याचे पोहणे/कुत्र्याचे भुंकणे/ज्वालामुखीचा उद्रेक

t-yā-c-e *pohaṇe / kutr-yā-c-e* *bhūṅkaṇe / jvālāmukhi-c-ā* *udrek*
he-OBL-GEN-NSG swim / dog-OBL-GEN-NSG bark / volcano-GEN-MSG outburst.M
「彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発」

कार चालविण्याचे (डाइविंग)/ची कादंबरी

kār *cālvinyā-c-e (ḍrāvhiṅg)* / *~c-i* *kādambari*
car drive-GEN-NSG (driving) / -GEN-FSG novel.F
「車の運転／～の小説」

5-34 の文においては、マラーティー語でも属格が積極的に使用される。

【親族, 場所名詞, 時間的關係】

5-35 X さん (固有名詞) のお母さん／机の横に／机の前に／*机に (来て!) /あの人の方

आनंद यांची (विशेष नाम) आई/माझ्या टेबलापाशी

ānand *yān-č-i* (*višeṣ nām*) *āi* / *mā-jh-yā* *ṭēbl-ā-pāši*
Anand he-GEN-FSG (proper name) mother / I-GEN-OBL table-OBL-side

टेबलजवळ या! / त्या व्यक्तीच्या शेजारी

ṭēbl-a-jaṣal *yā!* / *t-yā* *vyakti-č-yā* *šejāri*
table-OBL-close come.IMP / that-OBL person-GEN-OBL next

「アーナンド（固有名詞）のお母さん／私のテーブルの横に／テーブルのところに来てください！
／あの人の次」

5-35 の文について、マラーティー語では、親族関係を示す場合は属格を使用するが、場所名詞には後置詞を用いる。

【種別、用途、材料・材質、内容、産出物、表現形式、職種、取得源、状況】

5-36 バラの花びら／果物のナイフ／紙の飛行機／チューリップの絵／花の匂い／英文の手紙／日本語の先生／井戸の水／雨の日

गुलाबाच्या पाकळ्या/फळांसाठीची सुरी/कागदी विमान

gulābā-č-yā pākḷ-yā / phaḷ-ā-ñ-sāṭhi-č-i suri / kāgadi vimān
rose-GEN-OBL petal-PL / fruit-PL-OBL-PP-GEN-FSG knife.F / paper plane.NSG
「バラの花びら／果物用のナイフ／紙飛行機」

ट्यूलिपचे चित्र/फुलाचा सुगंध/इंग्रजीतील पत्र

tyulip-c-e citra / phulā-c-ā sugandha / iṅgraji-til patra
tulip-GEN-NSG painting.N/ flower-GEN-MSG fragrance.M / English-PP letter.N
「チューリップの絵／花の匂い／英文での手紙」

जपानी शिक्षक/विहिरीचे पाणी/पावसाळी दिवस

japāni śikṣak / vihiri-c-e pāṇi / pāvsāli divas
Japanese teacher / well-GEN-NSG water.N / rainy day.M
「日本語の先生／井戸の水／雨天」

5-36 の文について、マラーティー語では、一部形容詞化されている語もあるが、多くは属格によって表される。

【同格】

5-37 妹の花子／社長の田中さん

माझी धाकटी बहीण हानाको/ अध्यक्ष श्री. तानाका

mā-jh-i dhākṭi bahiṅ hānāko / adhyakṣa śri. Tānākā
I-GEN-FSG younger sister Hanako / president Mr. Tanaka
「私の若い姉妹花子／社長田中さん」

5-37 は、同格を示す文である。マラーティー語では、「A B」の構文で示す。

【属格の連続使用】

5-38 となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって。）

शेजारी राहणाऱ्या मित्राच्या वडिलांच्या गाडीचे टायर (काल अचानक पंक्चर झाले म्हणे.)

šejāri rāhaṅāryā *mitrā-č-yā* *vaḍilā-ṅ-č-yā* *gāḍi-c-e* *ṭāyar*
 next living friend-GEN-OBL father-PL-GEN-OBL car-GEN-NSG tire
 (*kāl* *acānak* *paṅkcar* *jhā-l-e* *mhane.*)
 (yesterday suddenly puncture become-PFV-NSG say.)

「隣に住んでいる友達のお父さんの車のタイヤが（昨日突然パンクしたそうだ）」

5-38 は，属格の連続使用を示す文である．マラーティー語でも，属格の連続使用は可能である．

以上，マラーティー語の所有・存在表現について日本語と比較をしながら概観した．マラーティー語は日本語やヒンディー語と同じ「ある」型言語である．また，属格の使用については日本語と似ている点が多く見受けられたものの，「の」の使用可能範囲は日本語の方が広い．マラーティー語は，属格だけでなく，過去分詞や現在分詞を使って名詞と修飾部の関係を示す．また，存在表現については，有生物主語には与格構文が使われやすく，無生物主語には場所を示す後置詞によって表される．マラーティー語の名詞修飾表現の詳細に関しては，パルデシ・柴谷 (2020) を参考にされたい．

略号

1	first person	LOC	locative
2	second person	M	masculine
3	third person	N	neuter
ACC	accusative	NEG	negation
ASSR	assertion	NOM	nominative
CAUS	causative	OBL	oblique
COR	correlative	PASS	passive
CP	conjunctive particle	PFV	perfective
CVB	converb	PERM	permissive
DAT	dative	PL	plural
EMPH	emphasize	POSS	possessive
ERG	ergative	PP	postposition
F	feminine	PRED	predictive
FUT	future	PROSP	prospective
GEN	genitive	PRS	present
HAB	habitual	PST	past
HORT	hortative	PTCP	participle
IMP	imperative	Q	question particle
IPFV	imperfective	REL	relative
INF	infinitive	SG	singular
L.INF	long infinitive	S.INF	short infinitive

参考文献

欧文

Census of India.2011."Census of India 2011 Paper 1 of 2018 LANGUAGE". New Delhi: Office of the Registrar General and Census Commissioner.

Comrie, Bernard.1976. "Aspect". Cambridge Textbooks in Linguistics.

- Deo, Ashwini. 2006. "Tense and aspect in indo-aryan languages: variation and diachrony". Doctoral Dissertation, Stanford University.
- Dhongde, Ramesh Vaman and Wali, Kashi. 2009. "Marathi". John Benjamins Publishing Company.
- Pardeshi, Prashant. 2000. "Transitivity and voice: A Marathi-Japanese contrastive perspective". Doctoral dissertation, Kobe University.
- Pardeshi, Prashant. 2016. "A Functional Account of Marathi's Voice Phenomena: Passives and Causatives in Marathi". Brill Publishers.
- Saier, Hansjakob. 1983. "Possession as an operational dimension of language". Tübingen: Gunter Narr.

和文

- 今村泰也.2017.『所有表現と文法化』. 東京：ひつじ書房.
- 風間伸次郎.2009.「テーマ企画：特集 受動表現 まえがき」,『語学研究所論集』14, pp.15-31.
- 風間伸次郎.2010.「テーマ企画：特集 アスペクト まえがき」,『語学研究所論集』15, pp.25-57.
- 風間伸次郎.2011.「テーマ企画：特集 モダリティ まえがき」,『語学研究所論集』16, pp.29-55.
- 風間伸次郎.2012.「テーマ企画：特集 ヴォイスとその周辺 まえがき」,『語学研究所論集』17, pp.1-22.
- 風間伸次郎.2013.「テーマ企画：特集 所有・存在表現 まえがき」,『語学研究所論集』18, pp.95-119.
- 風間伸次郎.2020.「英語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」,『語学研究所論集』25, pp.139-171. doi/10.15026/100161
- 柴谷方良.1997.「言語の機能と構造と類型」,『言語研究』112, pp.1-31.
- 西光義弘, プラシャント・パルデシ.2010.『自動詞・他動詞の対照』. 東京：くろしお出版.
- プラシャント・パルデシ.2013.「温度を表す表現は万国共通か?」, 人間文化研究機構(監修)『HUMAN5号』 pp.141-146, 平凡社出版.
- プラシャント・パルデシ, 桐生和幸, ナロック・ハイコ(編).2015.『有対動詞の通言語的研究』. 東京：くろしお出版.
- プラシャント・パルデシ, 柴谷方良.2020.「マラーティー語の名詞修飾表現—体言化理論の観点から—」.『日本語と世界の言語の名詞修飾表現』. プラシャント・パルデシ, 堀江薫(編). pp.413-445
- 堀江 薫, プラシャント・パルデシ(著), 山梨 正明(編).2009.『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ』. 東京：研究社.

執筆者連絡先：satomichida7@gmail.com

原稿受理：2023年8月1日